

佳作

宇宙一最強の最小動物

茨城県 高萩市立高萩小学校六年 緑川 依呀

「え、ムシ？これがクマムシなんだ。」

見た目はかわいいが、実は最強な生き物らしい。

この本を読んでおどろきの連続でした。

まず、クマムシは名前に「ムシ」と付いているのに虫ではなく、緩歩動物門というグループに属する動物であることです。こんな一ミリメートルほどの小さな生物が動物だなんて信じられませんでした。

さらにおどろいたのは、周りから水がなくなると「乾眠」という仮死状態になります。このカラカラに乾いた状態になるとマイナス二百七十三度の低温でも凍ったまま三十年間も生きられます。また、百度近くの高温でも耐えられるのです。それだけではなく水深一万メートルの七十五倍の圧力や、空気のない真空状態でも耐えられるのです。さらには、アルコールなどの薬品にも耐え、人の致死量の千倍相

当の線量の放射線や紫外線を浴びても、宇宙空間にさらされても生きることのできる最強の最小動物なのです。これだけたくさんの悪条件にも耐えられる生き物がこの地球に生息していることにますますクマムシという生き物に興味を持ちました。

そんな最強動物にもかわいい面があって、顕微鏡で観察すると、立ち上がるときに、レンズ越しに目が合うことがあります。また、転ぶと自力では起き上がれずバタバタとする様子は、人間の赤ちゃんみたいで、ほほえましく思いました。

クマムシについていろいろと調べてみたところ、身近に生息していることが分かりました。ベランダや歩道のすみっこにある乾いたコケにごく普通にたくさん生息しているのです。

また、おどろきの生態をヒトの役に立てようと研究もされていることです。たとえば、血液製ぎいの保管や輸送に、クマムシの乾眠の能力を応用することが可能になれば、今後の医りよう分野が大きく発展していくのではないかと期待されています。

多くの考えではもしかしたら、絶滅寸前の動物や植物も再生可能になるのではないかと思っています。これによって生態系が心配ですが、新しい発見があ

るかもしれません。

食べ物への利用が可能になれば、食べ物に困っている国や食べ物が育たない場所でも食べ物に困ることとはなくなります。

おどろきの能力をもった最小で最強の動物クマムシは地球の未来を背負っているのかもしれない。

歴史や化学（科学）を発展させるおどろきの生物「クマムシ」はまさに、「最強の動物」なんだと思います。